



分庁舎玄関横の緑のカーテン

「緑のカーテン」とは、「ヘチマ」や「ゴーヤ」などのつる性の植物を窓の外に茂らせた植物のカーテンのことです。夏場の強い日差しを和らげるだけでなく、根から吸い上げた水分が葉から蒸発すること（蒸散作用）により、周囲の温度を下げてくれるので、室温の上昇を抑えてくれます。これにより、冷房の使用を抑え、省エネルギー効果が期待できます。

このことから、市では現在、市役所本庁舎の市長室の西側、分庁舎の玄関横やクリーンセンターでゴーヤの苗を植え、緑のカーテンを育てています。

ゴーヤのほかにも、アサガオやフウセンカズラ、ツルマメなど、つる性の植物であれば緑のカーテンを作ることができます。この夏は、家庭や事業所でも緑のカーテンで省エネ、温暖化防止に取り組んでみませんか？

## 第2回リユース物品の無償譲渡会開催！

～リユース物品の展示および無償譲渡会を試行開催します～

7月26日 午前10時～11時  
野洲市リユースセンター（仮称）にて  
（西河原 2419（旧消防署車庫））

粗大ごみ等の減量をめざし、物品のリユース（再利用）の推進を図るため、リユース物品の展示および無償譲渡会を開催します。

ごみとして処分するのではなくまだまだ使えるリユース物品を展示し、皆様のご来場をお待ちしています。

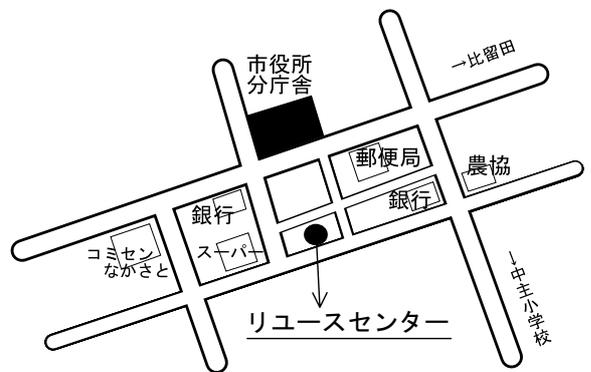
リユース品の譲渡対象者...市内在住者

リユースの対象物品...家具類、チャイルドシート、食器類、陶磁器類、バッグ類



譲渡の申込方法... 午前10時～11時までの間に希望するリユース品を1人につき1点申し込みます。午前11時に譲渡する人を決定します。

複数申し込みがある物品については抽選を行います。その他...引渡し後のリユース物品は返品できません。リユース物品の瑕疵責任は負いません。リユース物品の第3者への譲渡は禁止します。



第1回目の無償譲渡会

問い合わせ...環境課 589-6431、勳589-5069

# 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

歴史民俗博物館

☎587-4410、Fax587-4413

休館日/月曜日、7月21日 7月20日は開館  
第62回銅鐸研究会「銅鐸祭祀の終焉と纏向遺跡の出現」/7月4日 午後2時～4時  
講師...橋本輝彦さん(桜井市教育委員会)

夏期テーマ展「女性史の発見 資料から見た女性とくらし」/7月18日～8月30日  
考古、歴史、民俗の三つの分野の資料から女性の歴史や暮らしを考えます。

女性史講演会「近江の女の歴史」(仮)/8月1日 午後2時～4時

講師...京樂真帆子さん(滋賀県立大学教授)

埴輪・土器づくり体験教室 参加者募集/7月26日 制作、8月22日 焼成、いずれも午後2時～4時

対象...小学生以上、先着20人、参加費...700円

申し込み...7月4日 から電話受付

(58)

## 村の歴史を語る野田村絵図

地域の歴史を伝えてくれる資料に古文書があります。その中には村の様子などを描いた絵図も含まれており、ある時の村の様子をビジュアルに伝えてくれます。

野田でも古くからの家として木村定八家があり、今回、古い野田村絵図を拝見させていただきましたので紹介します。絵図の大きさは、タテ56・7cm、ヨコ90・8cmの大きさがあり、彩色されています。

現在軸に表具されていますが、最初は折り畳んで使用されていたようです。

凡例には、黒色が堤、赤色が道筋、白色が村とあり、樋(黄土色)、新田(桃色)、永荒(薄桃色)、水(水色)、領境(緑色)に区分されています。黒色の堤が描かれているのは、仁保川筋(日野川)と童子川筋の集落側のみです。集落東側から集落に入ってくる川は「新川筋」と記され

ており、現在の自治会館横の道路がこれに相当するようです。絵図では、この川筋より北側は集落になっておらず、田畑が広がっています。集落部分の南北182間、東西67間とあり、村の中には除地

(年貢の免除された土地)の「八幡宮」や「御蔵屋敷」、高札が描かれ、当時の村高が814石8斗8升6合で、家数が97軒であったことが分ります。現在野田の集落の戸数は183戸ですので、約2倍になったと考えられます。先の新川より北側に新しく集落が広がったことが確認されます。

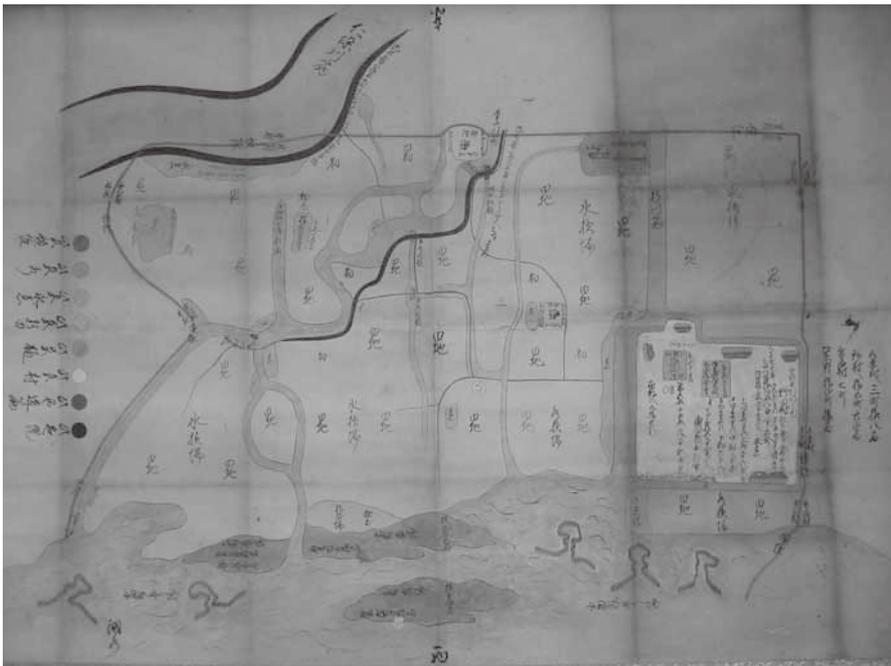
集落の南側には五条村、野村、安治村、比留田村への距離が記され、集落の北東側には「四位宮」や「行事宮」が描かれています。湖岸部分には「小物成草場」、「小物成葎場」、「小物成糸り場」や「新田場」一か所も描かれています。そして、田地の各所に「水損場」が記されており、水害にあつた部分を報告するため

に描かれた絵図の控と考えられます。

野田村は、江戸時代の初期1602(慶長7)年の検地の後、1679(延宝7)年の検地帳が作成されていますが、この絵図の集落部分の記載には、前者の石高のみしか記されていません。このため、慶長7年以降延宝7年前、おそらく17世紀中頃の野田村を描いた絵図と考えられます。

野田村はこの頃以降に集落が北側に拡大し、新田開発も進んでいったものと考えられます。このことは、地域の伝承と符合し、資料が残っていることにより再確認することができます。今日まで残っていて残ってきた資料を、大切に残していきたいものです。

古い野田村絵図(絵図左が北)



(学芸員 古川与志継)